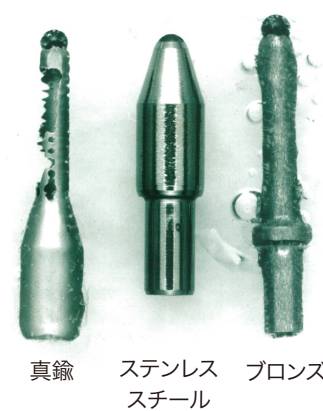


JOTTER STORY

1963 ステンレス製のソケット

僅か0.2gのステンレススチールを使ったペン先パーツ（ボールを支えるソケット）でボールペンリフィルの性能を劇的に改善。当時使われていた真鍮やブロンズよりも長持ちし、より均一に滑らかに書けるようになりました。

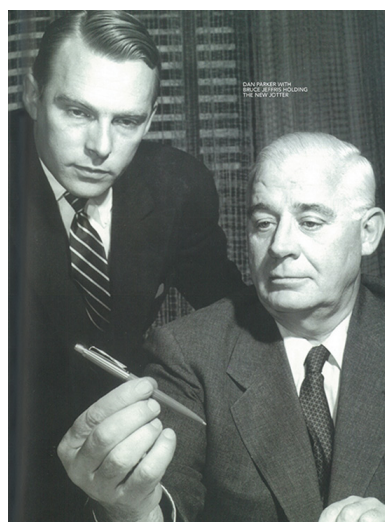


1954 デザインアイコン「ジョッター」の誕生

1月5日、ついに「ジョッター」の発売を正式に発表。そのプレスリリースからは、先進的な機能を備えたペンを作り上げたパーカーの情熱が感じられます。

プレスリリースに掲載された「ジョッター」の特長

- 1本の替芯で、それまでのボールペンに比べて約5倍の筆記距離を実現
- ノックするたびに芯が1/4回転し、ペン先のボールの耐久性が2～4倍向上
- 丈夫なナイロン製のボディとステンレススチール製のキャップを採用し、ひび割れを防止
- ペン先のボールを腐食させない中性タイプのインクを採用し、耐水性と耐光性を強化



ダン・パーカー（創業者の孫・写真左）、パーカー・ペン・カンパニーの社長のブルース・ジェフリーと共に

1945

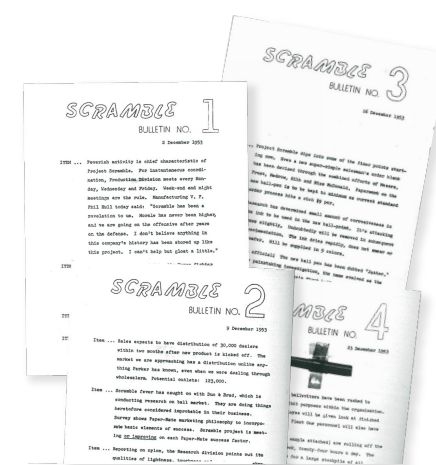
1945 ボールペン市場とパーカー

ボールペン市場が急激に拡大を始める中、パーカーは1945年にボールペンに関する初の特許を申請したものの、ボールペン開発に慎重な姿勢を崩しませんでした。それは当時のボールペンにはインクの不具合やチップの破損などが多く、製品として満足するには程遠かったからです。

1953

ボールペン開発プロジェクト「オペレーション スクランブル」始動

ボールペン市場はその後も成長を続け、万年筆の売上を超えるまでに拡大。そして、いよいよパーカーもボールペン市場に参入する決定を下します。プロジェクト名は「オペレーション スクランブル」。スクランブルとは軍用機の緊急発進の意味で、その名の通り、90日間でパーカーのブランドに恥じない品質の高いボールペンを完成させるというものでした。



2024

生誕70年、これから先もー

誕生から長い年月を経てもその魅力は色褪せることなく、映画や政治の舞台でも活躍するなど、世界中で愛され続けている「ジョッター」。パーカーの製品に対する強い信念と品質へのこだわりから生まれた「ジョッター」は、これからも時代とともに「信頼できるペン」として、また時代を映し出すデザインアイコンとして進化し続けていきます。



1957 T-ボールの開発

ペン先に取り付けられた直径1mmのボール表面に無数の孔を開けることで、光沢紙でのペン先の空回りによるインク途切れを解決しました。



1957 「矢羽クリップ」採用

品質が本当に満足されるまでは採用しないという姿勢で発売時は取り付けられていなかった「矢羽クリップ」。発売から数年後、市場の評価を受けて、ついに「矢羽クリップ」が採用されました。